

OSAKA MEN'S CHORUS  
第36回リサイタル

創立45周年記念



2010年5月16日(日)

午後2:00開演

いずみホール

主催 OSAKA MEN'S CHORUS

## ごあいさつ

本日はOSAKA MEN'S CHORUS、創立45周年・第36期リサイタルにお越しいただき誠にありがとうございます。

1965年の創立以来、今年で45年間歌い続けてまいりました。ご支援いただいた皆様を思うと感謝の気持ちでいっぱいです。若干の歴史を告白したことにはなりますが、若い気持ちを忘れずに今後も活動を続けてまいります。

さて、今回は45年間の集大成という意気込みでテーマを「わが心のアルカディア」としました。いつもの Sea Chanty には新しいアレンジ曲を加え、著名な作曲家である多田武彦氏に委嘱作品をお願いしました。その仕上がりは素晴らしい、名作に出会えたと思っております。またその一方で、初演する責任の重みも痛感しております。

そして最後のステージでは、宮崎剛さんの華麗なピアノ伴奏でJazzに挑戦いたします。心をこめて第一杯歌います。どうぞ最後までお楽しみください。

OSAKA MEN'S CHORUS キャスデン 有田仁一



創立45周年おめでとうございます。

大阪の地に根付いた OSAKA MEN'S CHORUS は男声合唱団としては稀有な存在だと思います。男声合唱が好きで集まったのは良いとしても、それ以上に海の男たちの歌 (Sea Chanty) にロマンをもとめ、メインレパートリーにしている。Sea Chantyをこよなく愛することが絶対条件であり、歌って踊れることも必要だとか。なかなか歌い手が集まりにくい状況で45周年を迎える。一般的に言えばあきもせず毎回Sea Chantyを舞台で繰り広げる。それでも観客動員数が落ちない。大変なことだと思いきや、団員はいとも平気な顔をして行動的です。

今度は台湾へ演奏旅行に行くとか!? 不思議な合唱団ですね。

東京リーダーターフェル1925 (TLT) と長い付き合いをしていて、TLTの団員が大阪に転勤するとOMCに入団して歌っています。東京に戻って来ても未だにOMCの演奏会に参加するメンバーもいます。

そのような関係から韓国男声合唱団 (KMC) 来日の際には、大阪や東京での演奏会に協力していただいたり、訪韓演奏会をご一緒したりと、いろいろな機会にお会いしていますが、私は定期演奏会を一度も聞いたことがありません。45周年の記念演奏会を機にOMCの魅力と行動の源泉はなんなのか?

会場で聞かせていただきます。今から大変楽しみにしています。

男声合唱団 東京リーダーターフェル1925 会長 澁谷 和典



OSAKA MEN'S CHORUS (OMC) 団員の皆様、平成22年の演奏会開催おめでとうございます。1985年、韓国男声合唱団 (KMC) が初めて東京を訪問した時が、東京リーダーターフェル1925 (TLT) との合同演奏会の始まりでした。OMCとの運命的な出会いは平成12年5月、尼崎市にある文化センターアルカイックホール (Amagasaki Cultural Center, Archaic Hall) での合同演奏会の時でした。それがもはや今年で10年になり、両国の団員と家族の人生の中で年輪となり、これからは厚くなりつつあります。

OMC皆様の美しい歌声と節制された調和、合唱への熱情と愛情は、いつも我が韓国男声合唱団が学ぶべき所であると思っております。

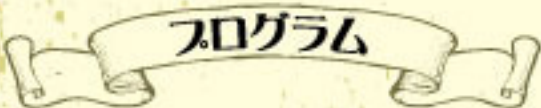
韓国男声合唱団にとって2008年は、創団50周年知天命の年でありました。その2008年美しき5月に大阪のOMC団員と家族の皆様をはじめ、韓・日両国合唱団の友情の輪を維持し発展させてきたTLT団員と家族の皆様を山井湖水に招待し、楽しい時を過ごし、忘れられない思い出が出来たことを本当に嬉しく思っております。特に、三つの合唱団が一緒になって歌った合同演奏 (総勢160名余) は、韓国の観客に二倍の喜びと感動を与えてくれたと確信しております。

45周年を迎えての今日の演奏会の開催おめでとうございます。一緒にこの会場へ参席させていただき、今日の皆様の素晴らしい演奏会を、美しい歌声を聴かせていただくのを、楽しみにしております。

この素晴らしい季節、皆様がもっと幸せになりますように・・・

OSAKA MEN'S CHORUS 万歳!! 韓国男声合唱団 万歳!!

韓国男声合唱団 団長 安 載賢



プログラム

第1ステージ

SEA CHANTIES

Sailing, Sailing  
I've got Six Pence  
Rolling Home  
The Pilot  
The Mermaid  
The Bay of Biscay

指揮 石津佳彰  
OMCアンサンブル

第2ステージ

男声合唱組曲「東京景物詩・第二」委嘱初演  
北原白秋 詩 多田武彦 作曲

雨あがり  
梨の畑  
六月  
薄荷酒  
曇  
秋

指揮 安井直人

==INTERMISSION==

第3ステージ

Contemporary Jazz Collection

Day by Day  
Somebody Loves Me  
I'm Always Chasing Rainbows  
Polka Dots and Moonbeams  
On The Sunny Side of The Street

指揮 石津佳彰 編曲・ピアノ 宮崎 剛



## 第1ステージ SEA CHANTIES

### 解説

シーシャンティーとは、帆船時代の欧米の船乗りの労働歌です。共同作業の時、あるいは夕食後の娯楽の時間に歌われておりました。男の歌そのものですから、男声合唱界では、昔から根強い人気のあるジャンルです。

#### Sailing, Sailing

勇壮な船出の歌です。シーシャンティーの中でも最も有名な曲で、世界中の多くの団体が、様々なアレンジで歌っています。私たち大阪メンズコーラスは、この曲をテーマソングと定め、演奏会のオープニングに必ず歌います。

#### I've got Six Pence

前半は、マザーグースの数え歌から取ったものです。六ペンスから始まり、だんだん減って、最後は無くなりますが、妻がいれば何もいらぬ、というニュアンスが込められているのは確かです。後半の繰り返し部分は、家庭や妻の元に帰れるうれしさを表しています。私たち大阪メンズコーラスは、昔からこの歌をメンバーやフレンズの結婚式で歌ってきました。「この歌のように、新郎は明日から家に飛んで帰ることでしょう」というスピーチが、司会者の常套句になっています。

#### Rolling Home

シーシャンティーの中でも、特にポピュラーなナンバーの一つと言われています。長い旅も終わり、ようやく故郷に帰れる喜びに満ち溢れている歌です。船も心も、まるで飛ぶように故郷に向かっていきます。

#### The Pilot

この曲のテーマは、(1) 専門を持つ者の誇り、(2) 専門を持つ人への信頼、この二点です。難所に来て、余りにも落ち着いているパイロット（水先案内人）を見て、心配になった水夫が、恐る恐る声をかけます。この歌詞は、英語圏ではけっこう有名らしく「信頼」「神様を感じる時」などのテーマでよく引用されるようです。

#### The Mermaid

航行中、人魚に会うと、その船は沈むという伝説があります。この船も人魚に会ってしまい、船長や乗組員が、遠い故郷に住む家族や恋人を思い、愁しみます。軽快なメロディーとは裏腹に、深刻な内容です。

#### The Bay of Biscay

ビスケー湾にはたくさんの入江があり、潮流は複雑で、航行しにくい海域だそうです。こんな所では絶対に嵐に遭いたくないと、船乗りたちに恐れられている難所の一つです。

## Sailing, Sailing

Sailing, sailing, over the bounding main,  
For many a stormy wind shall blow  
Ere Jack comes home again

Oh! heave ho! My lads, the wind blows  
free,  
A pleasant gale is on our lee,  
And soon across the ocean clear  
Our gallant barque shall bravely steer.  
But ere we part for freedom's shore  
tonight,  
A song we'll sing for home and beauty  
bright.  
Then here's to the sailor,  
And here's to the soldier, too  
Hearts will be forgiven  
Upon the waters blue.

(SEA CHANTIES:1981大塚メイズコーラス編)

波躍る大海原を超えて航海だ  
これから先、幾多の嵐にあおうとも  
われわれ水兵は再び故郷に帰るんだ

さあみんな、錨を上げろ、  
追い風が吹いている  
幸先いいことに強い風の風下にいる  
やがて暗れ渡った海を  
われらの船は順調に進んで行くだろう  
しかし、今夜自由の地に立つ前に  
祖国と美しい女性たちの為に歌を歌おう  
そして水兵に乾杯、  
ついでに兵士にも乾杯しよう  
(彼らとは今までいろいろあったけど)  
青い海の上では、すべてが許される

## I've got Six Pence

I've got six pence, jolly, jolly six pence,  
I've got six pence to last me all my life,  
I've got tuppence to spend and tuppence  
to lend  
And tuppence to send home to my wife,  
poor wife.

No cares have I to grieve me,  
No pretty little girl to deceive me,  
I'm as happy as a King, believe me,  
As we go rolling, rolling home.

Rolling home, rolling home,  
By the light of the silvery moon,  
Happy is the day when we line up for  
our pay,  
As we go rolling, rolling home.

I've got no pence, jolly, jolly no pence,  
I've got no pence to last me all my life.  
I've got no pence to spend and no pence  
to lend,  
And no pence to send home to my wife,  
poor wife.

No cares have I to grieve me,  
No pretty little girl to deceive me,  
I'm as happy as a King, believe me,  
As we go rolling, rolling home.

Rolling home, rolling home,  
By the light of the silvery moon,  
Happy is the day when we line up for  
our pay,  
As we go rolling, rolling home.

(SEA CHANTIES:1987大塚メイズコーラス編)

今日、六ペンスもらえた、大事な六ペンス  
この六ペンス、どう、やりくりしよう  
二ペンス使い、二ペンス貸して  
二ペンス嫁さんに渡そう

悩むことは何にもないし  
かわいい女の子にだまされることもない  
家に飛んで帰る時の気持ちといたら  
王様みたいに幸せなんだ、ほんとだよ

家に帰ろう、飛んで帰ろう  
銀色の月の光の中を  
給料日はとてもうれしい・・・  
並んで待って  
もらったら家に飛んで帰ろう

今日は給料日じゃないから  
今はすっからかんだよ  
何も買えないし、貸すこともできないし  
家にも手ぶらで帰るしかない

でもお金がないのなら悩むこともないし  
かわいい女の子にだまされることもない  
王様みたいな気分はお金なくても一緒だよ  
家に飛んで帰る時ってうれしいものさ

家に帰ろう、飛んで帰ろう  
銀色の月の光の中を  
給料日はとてもうれしい・・・  
並んで待って  
もらったら家に飛んで帰ろう

## Rolling Home

Rolling home, rolling home,  
Rolling home across the sea,  
Rolling home to dear New England,  
Rolling home, Fairland, to thee!

Call all hands to man the capstan,  
See you cable it runs clear,  
And we'll hear and meet together,  
For New England home we'll steer.

Rolling home, rolling home,  
Rolling home across the sea,  
Rolling home to dear New England,  
Rolling home, Fairland, to thee!

And the waves we leave behind us,  
Seem to murmur as they go,  
There's a highly welcome waving,  
In the land to which you go.

And we'll sing in joyful chorus,  
Through the watches of the night,  
Till we sight for dear New England,  
When the dawn rings in the light.

Rolling home, rolling home,  
Rolling home across the sea,  
Rolling home to dear New England,  
Rolling home, Fairland, to thee!

(SEA CHANTIES:1987大塚メイズコーラス編)

帰りたい、帰りたい、帰りたい  
早くこの海を渡ってしまっ  
て帰りたい、帰りたい、故郷に  
帰りたい、なつかしい故郷に

さあ、船出だ、錨を上げるぞ、  
全員でかかれ  
巻き上げ具合を確認しろ  
みんなで一緒に帰るんだ  
さあ、ニュー・イングランドに向けて  
舵を取れ

帰りたい、帰りたい、帰りたい  
早くこの海を渡ってしまっ  
て帰りたい、帰りたい、故郷に  
帰りたい、なつかしい故郷に

船の後にどンドン遠ざかって行く彼は  
何かつぶやいているようだけど、  
過ぎたものは放っておけ  
この先の彼は間違いなく歓迎してくれる  
だって故郷に向かっているんだから

誰も眠れないんだったら、夜通しみんなで  
歌を歌って、ただただ前ばかり見よう  
そのうち夜が明け、明るくなれば、  
目の前にあのなつかしい故郷の陸地が  
見えてくるはずなんだ

帰りたい、帰りたい、帰りたい  
早くこの海を渡ってしまっ  
て帰りたい、帰りたい、故郷に  
帰りたい、なつかしい故郷に

## The Pilot

"Oh! Pilot! 'tis a fearful night,  
There's danger on the deep,  
I'll come and pace the deck with thee,  
I do not dare to sleep."

"Go down," the sailor cried, "go down,  
This is no place for thee;  
Fear not, but trust in Providence,  
Wherever thou mayst be."

"Ah! Pilot, dangers often met  
We all are apt to slight,  
And thou hast known these raging waves  
But to subdue their might."

"It is not apathy," he cried,  
"That gives this strength to me,  
Fear not but trust in Providence,  
Wherever thou mayst be."

"On such a night the sea engulfed  
My father's lifeless form;  
My only brother's boat went down  
In just so wild a storm;  
And such, perhaps, may be my fate,  
But still I say to thee,  
Fear not but trust in Providence,  
Wherever thou mayst be."

(2009年 大阪メンズコーラス編)

★ねえ、パイロット、嵐の夜って恐いよね  
ここの海の底は、ややこしいだろう？  
ばくもここで何か手伝うよ  
とても眠れそうにないから

☆どうぞ船室に降りていて下さい  
ここはあなたの来る所ではありません  
ここは専門の私に任せて  
あなたは無事を祈っていて下さい

★ねえ、パイロット、ついついぼくらは  
危険な事を忘れがちなんだよね  
君は専門家だからわかるだろうけど  
これだけ海が荒れると  
何とかしなきゃいけない事を

☆気付かない訳じゃありません  
わかっているから落ち着いて見えるのです  
こういう時こそ腕の見せ所と、  
身も替まる思いです  
ここは専門の私に任せて  
あなたは無事を祈っていて下さい

☆ちょうどこんな夜でした  
父は海にのまれて死にました  
兄も舟と共に沈みました  
こんな嵐の中でした

☆それだけに、力が入ります  
嵐に会うのは宿命かもしれません  
ですから、ここは専門の私に任せて  
あなたは無事を祈っていて下さい

★一般水夫、☆パイロット (水先案内人)

## The Mermaid

On Friday morn when we set sail,  
And our ship not far from the land;  
We there did espy a pretty, pretty maid,  
With a comb and a glass in her hand.

\* While the raging seas did roar,  
And the stormy winds did blow,  
And we jolly sailor boys were up, were  
up aloft,  
And the landlubbers lying down below,  
Below, below,  
And the landlubbers lying down below.

Then up spoke the captain of our gallant  
ship,  
Who at once our peril did see;  
"I have married a wife in fair London town,  
And tonight she a widow will be.

Then three times round went our gallant  
ship,  
And three times round went she;  
Then three times round went our gallant,  
gallant ship,  
And she sank to the bottom of the sea.

(2009年 大阪メンズコーラス編)

金曜の朝、我々はお出港した  
そして陸地からそんなに離れていない所で  
クンと鏡を手にした  
かわいい、かわいい人魚に出会った

\* 逆巻く海は鳴り  
嵐のような風が吹きつけるけど  
俺たち水夫はマストに登り  
新米水夫は下で引っくり返っていた

その時船長が言った  
彼もまた、その災いの元を見たのだった  
「私には遠くロンドンに妻がいるが  
今夜、彼女は未亡人になってしまふ」

船は3回まわった  
そして海の底に沈んでしまった

## The Bay of Biscay

Loud roar'd the dreadful thunder,  
The rain a deluge show'rs,  
The clouds were rent asunder  
By lightning's vivid pow'rs.  
The night was drear and dark,  
Our poor devoted bark,  
Till next day there she lay  
In the Bay of Biscay, O!

Now, dash'd upon the billow,  
Her op'ning timbers creak,  
Each fears a wat'ry pillow,  
None stop the dreadful leak.  
To cling to slipp'ry shrouds,  
Each breathless seaman crowds,  
As she lay till next day  
In the Bay of Biscay O!

(省略部分有り)

Her yielding timbers sever,  
Her pitchy seams are rent,  
When Heav'n, all bounteous ever,  
It's boundless mercy sent,  
A sail in sight appears,  
We hail her with three cheers,  
Now we sail, with the gale,  
From the Bay of Biscay O!

(2009年 大阪メンズコーラス編)

雷はけものように吠え立て、  
それはそれは恐ろしく  
雨水は息ができないくらい降りかかる  
船妻が雲を引き裂き、あたりを照らし  
それが消えれば漆黒の闇  
おれたちの船は  
嵐のいけにえになったようで  
このままじゃあ、夜明けを待たずに  
ビスケー湾に沈んでしまふ

今度は下から大きな音  
船の骨組みがゆがんだのか？  
ああ、沈んでしまふ、と誰もが覚悟した  
でも被害を見に行くどころじゃなかった  
つるつるするシュラウドローブに  
息も絶え絶えで、  
しがみついているのがやっと  
「シュラウド」に「死に装束」の  
意味があると  
誰かが言ってみたみたい、  
このままじゃ  
ビスケー湾に沈んでしまふ

\*省略部分  
何とか夜が明けたけど、何てこったい！  
明るくなって周りをよく見りゃあ  
難破船の残骸ばかりじゃあいか  
余計恐ろしくなって、  
何も見えない夜の方がまだましだった  
夢も希望もなくなった今  
いよいよ今日中に  
ビスケー湾に沈んでしまふ

ゆがんだ木枠は折れ曲がり  
船板もはがれ  
もうだめかと思ったその時  
神の助けか、船が見えた  
安全な航路に出られたんだ！  
その時は万歳三喝さ  
それこそ尻に帆かけて、とっとと逃げた  
このいまいましいビスケー湾から



## 第2ステージ

# 男声合唱組曲「東京景物詩・第二」委嘱作品・初演

北原白秋 詩 多田武彦 作曲

## 男声合唱組曲「東京景物詩・第二」誕生記

多田武彦

私の郷里は大阪で、OSAKA MEN'S CHORUS（以下、OMCという）が、有力な男声合唱団であることは、以前から存じ上げていたが、交流は、あまりなかった。一昨年渉外担当マネージャーの栗津重光氏から「OMCは創立以来、船乗りのような強固な心身を持った男達の合唱団として発展してきた。近年、メンバーから多田の男声合唱組曲『航海詩集』を歌いたいとの要望があったが、楽譜が絶版となっているので、楽譜を拝借したい」との打診があった。

組曲「航海詩集」は「幼少の頃から船乗りを志した詩人・丸山薫先生」の名作から四つの詩を選び、1961年関西学院グリークラブからの委嘱作品として作曲したものであるが、合唱組曲の作曲を始めてから未だ七年そこそこの私の未熟さもあって、初演後は愛唱される機会が少なかった。折を見て増補改訂版を作ろうと思ったが、一昨年時点では未だ完成していなかった。このように釈明して、とりあえず楽譜をお送りした。

数ヵ月後、栗津氏から「OMCのメンバーの中には、北原白秋先生の詩を愛読している者が多い。また、指揮者の一人の安井直人氏は、御尊父以来の白秋ファン。そこで、白秋先生の詩による男声合唱組曲が出来るとしたら、委嘱したい」との打診があった。

私事ながら現在七十九歳の私は、生来の虚弱体質と加齢が基に数年前から体調不良で、主治医からは遠出などの外出禁止令が出ていたが、自室に籠もっての作曲活動は許されていた。「いよいよ余命幾許もないか」と考えて、「今の内に作品を書き残しておこう」と三年前から、十一ほどの男声合唱組曲を作る計画を立てた。この中には、白秋先生の詩によるものが三作品あり、組曲「更紗模様」をクローバークラブ大阪に、組曲「過ぎし日」を慶應義塾ワグネル・ソサィエティOB合唱団に提供し、組曲「東京景物詩・第二」の初演をOMCにお願いすることにした。

#            ♭            ♮

北原白秋先生が初めて東京に移住された1904年は日露戦争勃発の年。爾後首都圏各所に移り住みながら、当時の著名な詩人や歌人との交流を深められた。詩集「東京景物詩及び其他」は1910年頃に書かれたと謂われ、日露戦争後急速に近代化されていった日本の首都圏の風物や人間模様を、多くの芳醇な語彙を駆使して、鮮やかに描かれている。

一方私は京大在学中、京大男声合唱団の指揮をしていた頃から、作曲家清水脩先生より多くの薫陶を受け、特に「日本歌曲や合唱曲を書くなら、北原白秋作詞・山田耕祥作曲の作品を徹底分析せよ」と指示された。

そのせいか、私の八十ほどの組曲の内の十五曲は、北原白秋先生の詩に作曲しており、詩集「東京景物詩及其他」の中から、1957年に組曲「雪と花火」、1991年に組曲「東京景物詩」、本日初演の組曲「東京景物詩・第二」を作曲した。

「雪と花火」は、私が初めて東京に移り住んだ折の印象を、合唱音楽で表して見ようと作曲した二十六歳の時の作品。「東京景物詩」は、還暦を過ぎ、近代化する日本の中での白秋先生の描かれた喜怒哀楽が、多少とも理解できるようになった頃の作品。そして今回は、同じ詩集の中でも白秋先生が、実に冷静に、客観的に、急変貌を遂げる東京の風物や人間模様を描かれた詩を選び、作曲した。個々の詩と曲想については、指揮者安井先生の名解説があり省略するが、作曲途上でのエピソードを一つ紹介する。

#            ♭            ♮

第一曲「雨あがり」の詩は、恐らく銀座四丁目交差点から東へ200米ほど行った辺りの木挽町界隈の風情を描いたものと推察された。詩の中の「書き割りのような杵屋の」などを見ると、「木挽町の当時の歌舞伎座の近くに、三味線の杵屋佐吉一門の、舞台の背景を模した外壁に囲まれた稽古場があって、その裏の木橋を、稽古帰りの若い役者が、蛇目傘を傘めて雨あがりの通りを歩いていく」など、浮世絵を彷彿とさせるような描写があり、私は身震いした。私の祖父は創業期の松竹株式会社の役員をしており、初孫の私にもこの道を継がせようと、出張の東京から帰ってくるたびに、歌舞伎に関するあらゆる話を私に吹き込んだ。そのためか何時しか私は歌舞伎の「外題・役者の屋号・家紋・芸名の変遷・関連のある諸事項」を詰んでいた筈だったが、この詩の中の「筵若」という芸名を知らなかった。指揮者の安井先生は、大阪府立泉尾高校の国語の教諭で、国文学は基より多くの関連事項に精通しておられるほか調査能力も抜群と聴いていたので、この「筵若」のことを調べて頂いた処、即座に答が返ってきた。

市川筵若とは、明治時代後期から昭和時代初期にかけて一世を風靡した希代の名若女方（わかおんながた）市川松蔭（しょうちょう）の若い頃の芸名であった。新歌舞伎の著名な作家・岡本綺堂の戯曲「修善寺物語」「番町皿屋敷」「鳥辺山心中」を演じて歌舞伎界に新風を吹き込んだ二代目市川左団次の共演者として名を馳せ、美しい舞台姿と名演技により、一時期、美女のことを「松蔭のような女」という新語が生まれたほどであった。

歌舞伎にも造詣が深かった白秋先生が、松蔭の若い頃の姿を、雨上りの木挽町の風情の中に取り込まれていたことは、歌舞伎の興行に縁のある家系に育った私にとっては、一入感慨が深く、この組曲の冒頭に迷わず「雨あがり」を配した次第。

#            ♭            ♪

こうした創作の機会を与えて下さったOMCの諸兄に、心から御礼を申し上げますと共に、今後ますますの発展をお祈りする。



挿畫「初夏の遊樂」……木下壺太郎



## わかい東京に江戸の唄 陰翳と光のわがこころ

～東京景物詩とその周辺～

安井直人

白秋は九州柳川の裕福な豪商の長男として生まれた。何不自由ない恵まれた環境の中で成績も優秀だったが、福岡県立伝習館中学時代には、陰険な数学教師に反発して試験をボイコットし、3年に進級できず落第している。それは幼い頃から優等生であった自分への反発であると同時に、家督相続を強要して文学を禁じる父、長太郎への反発でもあった。卒業間際には父に内緒で中学を退学して単身上京し、早稲田大学英文科予科に入学する。こうして世間知らずのトンカ・ジョン（良家の長男）は、東京という刺激と誘惑に満ちた大都会に呑みこまれ、恋と挫折の波乱の青春時代を過ごすことになる。これらの体験が数年の後に『邪宗門』『思ひ出』『東京景物詩及其他』という詩集に見事に結実し、白秋は若くして詩人としての名声と富を手に入れる。中でも『東京景物詩及其他』（第3版から『雪と花火』と改題）は、近代的で洗練された東京の都市生活と昔ながらの下町の江戸情緒が匂い交ぜとなって独特の“官能と退廃の世界”を創り出している傑作である。

この『東京景物詩』に深い陰翳を与えているのが白秋の最初の妻となった俊子との出会いである。引っ越し先の隣家の人妻であった俊子は、夫に虐待され、不幸な結婚生活を強いられていた。彼女への同情の気持ちはやがて愛情に変わり、道ならぬ恋に苦しむのだが、結局姦通罪で逮捕収監されてしまう。裁判の末、無罪にはなったものの白秋の名声は地に落ち、失意の中で死を思う日々が続く。俊子とはその後正式に結婚し、神奈川県三浦半島の三崎に新しく居を構え、人生においても芸術の上でも大きな転換点となるのである。

男声合唱組曲『東京景物詩・第二』はその名の通り、詩集『東京景物詩及其他』から選ばれた詩で構成されている（第5曲「墓」を除く）。第1曲から第6曲まで配列されたこれらの詩には、全体を通して一貫したストーリーと、巧みに構成されたドラマツルギー（dramaturgy）が感じられ、しかも一つ一つの詩がそれぞれこの詩集のさまざまな方向性を指し示していて、この6編を読むだけで詩集『東京景物詩及其他』の本質がわかるといっても過言ではない。そして、これらの詩につけられた音楽は、どの瞬間を切り取っても余計な音が一つもなく、最小限の表現で全てのことを語り尽くすべく簡潔に厳しく吟味されて、白秋の精神世界を完璧に表現している。近年もてはやされる若手の作曲家たちには到底真似のできない、美しいメロディーとシンプルで重厚かつ繊細なハーモニーは、作曲家、多田武彦の真骨頂ともいべきもので、間違いなく多田武彦の傑作の一つとして歌い継がれる名曲である。

## 雨あがり

雨あがりの都会の風景の中でふと垣間見た艶めかしい江戸の面影。田舎から出てきた若者、白秋が感じた「東京」の“魅力”と“危うさ”。

## 梨の畑

都会暮らしの中で少年の頃の淡い恋をふと思い出す。多感な少年時代が懐かしく、またほろ苦くよみがえる。

## 六月

都会の洗練された生活。丘の上の瀟洒な洋館から街を見下ろしながら、明るい陽差しの中でふと感じる虚しさ。

## 薄荷酒（はっかざけ）

道ならぬ恋に落ちた二人。女は男の作る詩に涙し、男は女の黒い瞳にすすり泣く。緑色の薄荷酒の向こうに見え隠れする行方も知れぬ恋の苦しみ。

## 種（ひきがえる）

遂げられぬ恋の裏側は、深く激しい愛欲の世界。諧謔的でユーモラスな調べの中に、悲しく切ない人間の性を官能的に描く。

## 秋

海岸沿いを颯爽と歩くお洒落な若紳士の姿に秋を喻えた詩。疲れた心と身体を癒しに故郷の海に似た海岸にやってきた白秋の姿が投影されている。

雨あがり

やはらかい銀の毬花（ぼやぼや）の、  
ねこやなぎのほふやうな  
その湿った水路に単艇（ボート）はゆき、  
書齋のやうな柵屋の  
裏の木橋に  
紺の蛇目傘（じゃのめ）をつぼめた。  
つつましい素足のさきの爪革（つまかわ）のつや、  
薄青いセルをきた籠若の  
それしやらしいたずみ・・・

ほんに、ほんに、  
黄色い柳の花粉のついた指で  
ちよいと今晚は、  
なにを弾かうつていふの。

梨の畑

あまり花の白さに  
ちよつと接吻（きず）をしてみたならば  
梨の木の下に人がゐて、  
こちら見ては笑うた。  
梨の木の毛虫を  
竹ざれでつつき落し、  
つつき落し、  
のんびり持った喇叭で  
受けて廻つては笑うた、  
しよざいなやの、  
梨の木の畑の  
毛虫採のその子。

六月

白い静かな食卓布（テーブルクロス）、  
その上のフラスコ、  
フラスコの水に  
ちらつく花、釣鐘草。

光沢のある粋な小鉢の  
釣鐘草、  
汗ばんだ釣鐘草、  
紫の、かゆい、やさしい釣鐘草、

さうして嘔びあがる  
苦い珈琲よ、  
熱い夏のところに  
私は匙を廻す。

高窓の日被（マルキイズ）  
その白い斜面の光から  
六月が来た。  
その下の都会の鳥獣籠。

幽かな響きがきこゆる。  
やはらかい乳房の男の胸を抑へつけるやうな・・・  
苦い珈琲よ、  
かきまわしながら  
静かに私のところは泣く・・・

薄荷酒

「思ひ出」の頁に  
さかづきひとつつして  
ちらちらと、こまごまと、  
薄荷酒を注げば、  
緑はゆれて、かげのかけ  
仄かなわが詩に嘔り泣く、  
そなたのころ、薄荷ざけ

思ふ子の顔に  
さかづきそつと透かして、  
ほれぼれと、ちらちらと、  
薄荷酒をのめば、  
緑は沁みて、ゆめのゆめ、  
黒いその眸（め）にすすり泣く、  
わたしのころ、薄荷ざけ。

暮

夏の昼間のひきかえる  
そなたは、なんでさびしいぞ。

白い女の指さきで、  
刺され、つかれてうれしいか。

夏の昼間のひきかえる、  
海鼠色したひきかえる。

金の指輪に、肢（て）が切れて、  
血でも出したら何とする。

夏の昼間のひきかえる、  
海鼠色したひきかえる。

秋

日曜の朝、「秋」は銀かな具の細巻の  
細薄き黒の蝙蝠傘（かうもり）さしてゆく、  
紺の背広に夏帽子、  
黒の蝙蝠傘さしてゆく、

瀟洒にわかき姿かな。「秋」はカフスも新しく  
カラも真白につつましくひとりさみしく歩み来ぬ。  
波うちぎはを東京の若紳士めく靴のさき。

午前十時の日の光海のおもてに広重の  
藍を燻して、虫のごと白金（プラチナ）のごと閃めけり。  
かろく冷たき微風（そよかぜ）も鹹（しほ）をふくみて薄青し、  
「秋」は流行（はやり）の細巻の  
黒の蝙蝠傘さしてゆく。

日曜の朝、「秋」は匂ひも新しく  
新聞紙折り、さはやかに衣囊（かくし）に入れて歩みゆく、  
寄せてくずるる波がしら、濡れてつぶやく銀砂の、  
靴の爪さき、足のさき、パツチパツチと虫も鳴く。

「秋」は流行の細巻の  
黒の蝙蝠傘さしてゆく。



### 第3ステージ

## Contemporary Jazz Collection

### 解説

#### JAZZ CHORUSとOMC

石津佳彰

OMCがスタンダード・ジャズ・ナンバーを取り上げるのは4年振りです。前回と同様今回もアメリカのジャズ・コーラス・グループ、The Four Freshmenのレパートリから5曲演奏します。前回は「ルート66」や「ハロー・ドリー」等を演奏しました。Freshmenのコーラスのアレンジはとても複雑なハーモニーとリズムで構成されていて、それを演奏するには大変な練習が必要です。

今から47～8年前、私がまだ高校生の時に4人でコーラスグループを組んでいました。そのころはゴールデン・ゲイト・カルテットやデルタ・リズム・ボーイズといった、アメリカのグループが全盛で、日本でも、ダーク・ダックスやデューク・エイセスといったグループが活躍し始めた頃でした。カルテットの楽譜など存在しない時代だったので、私達のグループは彼らの演奏する曲を、音の美しいテープ・レコーダーに録音してそこから採譜し、楽譜を作って細々と練習していました。そんな時、強烈なハーモニーとリズムで歌うグループのレコードを聞く機会があり、それはラテン・ナンバーでしたが、自分の魂がすべて引き込まれるほどショックを受けました。その後彼らの歌うスタンダード・ナンバーのレコードを何枚も買い求め、美しい音のテープ・レコーダーに録音し採譜して楽しんだものです。それから40年以上たって、ある時それらを大コーラスで演奏すればどうなるのかと考えるようになり、思い切って4年前のOMCのプログラムに取り入れました。あの時のリサイタルは4ステージともジャンルの違う英語の曲ばかりの演奏だったので覚えておられる方もおいでだと思います。

大コーラスでジャズ・コーラスを取り上げる合唱団の演奏を私は何度となく聞かせていただきましたが、その殆どはジャズになっていないという印象です。たいてい楽譜が目の前にあってしまうので、その通りの演奏から抜け出していない物になってしまっているようです。私たちも当然その様な状態から練習が始まりました。回を重ねていくうちにだんだん楽譜から目が離れfeelingで曲を歌えるようになってきたようです。OMCは創立当時から日本で一番英語の曲を歌えるグループを目指し、シャンティやロバート・ショウの曲、バーバー・ショップなど今日まで演奏してきました。その集大成がジャズ・コーラスとも言えます。

前回同様、今回もピアニストの宮崎剛氏の演奏で、充分楽しいセッションができれば嬉しいと心に念じて演奏します。当然彼の楽譜にはピアノの音などは一切書いてありません。彼のピアノと我々のコーラスがどれくらいコラボレーションできるか、聞いていただくお客様と同様に私たち自身も興味津津です。これがうまくいけば懲りずにまたジャズに取り組む積りです。

#### Day By Day

1945年制作のポピュラーな曲で、アクセル・ストーダルとポール・ウェストンの曲に、サミー・カーンが詩をつけたものと言われています。日に日につる恋心を歌っています。男性・女性どちらの歌手も歌っていますが、訳は女性の立場にしました。

## Somebody Loves Me

恋人のいない男が、期待を込めて待ち望む様子を歌っています。作曲はジョージ・ガーシュインで、1924年に出版されました。以後、ポピュラーなナンバーとなり、広く音楽のジャンルを越えて、更に男女を問わず、数十人のミュージシャンがレコーディングしています。また、歌手の男女により、he/she, boy/girl など、歌詞の中の代名詞の使い方が違います。

## I'm Always Chasing Rainbows

作詞：ジョセフィー・マッカーシー、作曲：ハリー・キャロルとなっておりますが、ベースのメロディーは、ショパンの「幻想即興曲」の中間部です。この曲は1918年に、ブロードウェイ・ショーで公開され、以後、この曲を用いたショーが映画化されるなどして、ポピュラーなナンバーとなり、多くの歌手が歌ってきました。

## Polka Dots And Moonbeams

1940年制作、曲：ジミー・ヴァン・ヒューゼン、詩：ジョニー・パーク。まるで映画のストーリーそのままの展開で結ばれた二人の物語です。

## On The Sunny Side Of The Street

作詞したドロシー・フィールズは、女性初のソング・ライターでした。ブロードウェイ・ミュージカルや映画のために、400曲以上の歌を作りました。この曲は元々、ミュージカル・ショーの中の一曲でしたが、この曲だけが生き残り、数多くのミュージシャンに歌われ続けています。

## 歌詞 & 和訳

### Day By Day

Day by day I'm falling more in love with you  
And day by day my love seems to grow  
There isn't any end to my devotion  
It's deeper dear by far than any ocean

I find that day by day you're making all my dreams come true  
And So come what may I want you to know  
I'm yours alone, and I'm in love to stay  
As we go through the years day by day

(2009年 大阪メンズコーラス編)

思い返してみますれば、ここ数日、あなた様の事が頭から離れませぬ、恋しい思いは、日に日に強くなっております。  
自分でも恥ずかしくなるくらい、思い詰めたらきりがなく、当たり前前言葉で申しますと「海よりも深い愛・・・」とか何とかでしようが、あなた様を他の誰よりも深くお慕い申し上げております事、間違ひございません。

あなた様は、まだご自身ではお気づきになってはおられませんが、ここ数日は、こうして下さいなればうれしいのに、と私が思い描いた通りの事を、あなた様はして下さいました。夢は叶うという言葉に嘘はございませんでした。

そうなりますと、私があなた様に一番知っていたきたい事、すなわち、あなた様をお慕い申し上げております事、おわかりいただける日も近いことかと、喜びに胸は震えております。ただひたすらに、あなた様お一人をお慕い続けております。その気持ちは変わるものではございません。毎日毎日、お慕い続けております。いつまでも、いつまでも、お慕い続けて参ります。

### Somebody Loves Me

Somebody loves me  
I wonder who  
I wonder who she can be;  
  
Somebody loves me  
I wish I knew,  
Who can she be worries me  
  
For every girl who passed me  
I shout, hey! maybe,  
You were meant to be my loving baby;

Somebody loves me  
I wonder who,  
Maybe its you.

(2009年 大阪メンズコーラス編)

<前口上>  
皆さん、まあ聞いて下さい。  
天地創造以来、  
独身の男と同じ数の女の子が  
いたはずなんです。  
それは神様の成せる業（わざ）ですから  
当然なんです。  
僕が一番残念に思いますのは、  
誰かがその法則を少しばかり  
狂わせた事ですね。  
神の定めたこのステキな法則に、わらにも  
すがる気持ちでしがみついています。  
なぜなら、  
僕はまだ彼女がいないからなんです。

<コーラス>  
僕を好きになってくれる人は  
きっとどこかにいるはずなんだ  
誰だろう？  
一体、どんな人だろう  
きっとどこかにいるはずなんだ  
知りたい  
僕をどぎまぎさせる子って、誰だろう？  
目に入る女の子みんなに聞いてみたい  
ひょっとして、君かい？  
運命の人は！  
ぼくのかわいい恋人になるって言う人は・・・  
ぼくを好きになってくれる人は、  
きっとどこかにいるはずなんだ  
誰だろう？  
君だ、君に違いない！

## I'm Always Chasing Rainbows

I'm Always Chasing Rainbows  
Watching clouds drifting by  
My dreams are just like all my schemes  
Always ending in the sky

Some fellows look and find the sunshine  
I always look and find the rain  
Some fellows make a winning sometime  
I never even make a gain  
Believe me

I'm Always Chasing Rainbows  
Waiting to find a little blue bird in vain

(2009年 大阪メンズコーラス編)

### <前口上>

みなさん、こんにちは！  
大阪メンズコーラスです。  
どうしたんですか？  
そんなに浮かない顔をして！  
さあ、元気出しましょうよ。  
何があったか知りませんが、  
私に比べちゃ軽いもんですよ。  
何せ私は、  
次から次へと災難ばかりでしてねえ。  
まあ、聞いて下さい。  
どんなに大変な人生だったか・・・

### <コーラス>

私は昔から、  
虹ばかり探し求めてきました  
遠のきれいなものに引かれる  
性格なんでしょうかね  
流れる雲を見つめては、  
虹が出てないかと探しました  
こんな雲行きの方に  
見つかるわけがないんですけどね  
万事この調子ですから、  
夢見た事も、しっかり計画した事も  
それこそ虹みたいに空の彼方に  
消えていってしまいました  
こんなとんちんかんな事をしていても、  
それでも、中には  
暖かいお日様に巡り会える人も  
いらっしやるでしょう  
でも、私の場合、出会うものといったら、  
いつも雨です  
何かを見つけて、  
大成功する人もいらっしやるでしょう  
でも、結局私は、  
何も手にできませんでしたが、本当ですよ  
こんな風に、  
私はいつも虹を探しているんです  
幸せの青い鳥は・・・  
結局見つかりませんでした

## Polka Dots And Moonbeams

A country dance was being held in a  
garden  
I felt a bump and heard an "Oh! , Beg  
your pardon"  
Suddenly I saw Polka dots and  
moonbeams  
All around a pugnosed dream

The music started was I the perplexed  
one  
I held my breath and said "May I have  
the next one?"  
In my frightened arms Polka dots and  
moonbeams  
Sparkled on a pugnosed dream

There were questions in the eyes of  
other dancers  
As we floated over the floor  
There were questions but my heart all  
the answers  
And perhaps a few things more

Now in a cottage built of lilacs and  
laughter  
I know the meaning of the words "Ever  
After"  
And I'll always see Polka dots and  
moonbeams  
When I kissed the pugnosed dream

(2009年 大阪メンズコーラス編)

庭先のダンスパーティー 月明かり  
ぶつかるそばに聞く 詫びの声  
目をやれば水玉模様は月に映え  
こちらを見るは、いとしのあの子

曲進み集る心に出す言葉  
一緒に聴いて下さいますかと  
水玉が、すっと飛び込む腕の  
心で火花、はじけ飛び交う

他の人は訳わからずの様(さま)をなす  
予想もできぬ、この組み合わせ  
さりとて、こちらは既に予感済み  
この先々の未来までもが

わが家(や)には花と笑いが満ち溢れ  
ハッピーエンドは、まさにこのこと  
水玉にかけた想いのときめきは  
くちづけのたび、また恋(よみがえ)る

## On The Sunny Side Of The Street

Grab your coat and get your hat  
Leave your worry on the doorstep  
Just direct your feet  
To the sunny side of the street

Can't you hear the pitter-pat?  
And that happy tune is your step  
Life can be so sweet  
On the sunny side of the street

I used to walk in the shade  
With those blues on parade  
But now I'm not afraid...  
This Rover, crossed over

If I never have a cotton picking dime  
I'll be rich as Elvis Presley  
Gold dust at my feet  
On the sunny side of the street

(2009年 大阪メンズコーラス編)

### <前口上>

今日は、大阪メンズコーラスです。  
どうしたんですか、  
そんなに浮かない顔をして？  
あれこれ気にしてちゃ、だめですよ。  
そんな時は、いいですか、  
こうするんですよ。

### <コーラス>

はい、コートを持って、帽子を取って  
玄関で、嫌な事は全部振り落として  
とにかく、  
一歩踏み出してごらん下さい、  
ただし道のこちら側、  
陽の当たっている方に、ですよ

バタバタいう音が聞こえますか？  
この幸せそうな足音は、  
実は、あなたの足音ですよ  
人生って、

本来こんなに楽しいものなんですよ  
それもこれも、道のこちら側、  
陽の当たる方を歩いているからですよ

かくいう私も  
反対側の日陰の方を歩いて来ました  
次から次に、つらいことばかりありました  
でも今は何もこわくありません  
道のこちら側、  
陽の当たる方に渡っただけなんですけどね

こちらに渡ってきた今、  
確かに言えるのは、  
たとえお金がなくても  
ブレスリーやマイケルのような  
お金持ち気分になれる事でしょうか  
足元のホコリだって  
金の粒に見えてきますからね  
ちょっと反対側、  
陽の当たる方に渡っただけなんですけどね



# 出演メンバー紹介

(指揮者\* キャプテン\*\*)



粟津重光



安藤邦昭



中村文雄



長友伸吾



島山 朗



広田恒夫



藤原敏男



好川正孝



吉田秀行



南野三都男



村川真人



足立誠也



藤川文義



五十嵐強



池田哲士



市川邦彦



喜多弘和



黒田 武



小林伸雄



佐竹広吉



斉藤 蔚



鈴木 眞



田村仁男



橋本 博



安井直人\*



松岡康生



相田一雄



有田仁一\*\*



池田泰延



石津佳彰\*



岩間克昭



大月 修



武田浩伸



田中潤一



竹内啓祐



福田孝祝



毎野正紘



山口征宏



湯本 節



佐伯博史



左手豊文



秋田 耕一



稲本 雅俊



岩井 爽



宇野 健一



大西 亘



久保 毅



築田 幸利



中西 純三



藤川 雄紀



堀 清

## 伴奏者紹介



### 宮崎 剛 (ピアノ)

大学卒業以来毎年のリサイタル、内外10以上の管弦楽団との協演、ライブハウスへの出演など、パッサからジャズに至るまで幅広いレパートリーを生かし年間数十回以上のピアノ演奏会に出演。また各地の合唱団と作・編曲も含めた協演も数多く、特に昨年はピアノ独奏版ベートーヴェン第九を、実力派声楽ソリスト陣の協力を得て、大阪、旭川、地元和泉で演奏した。関西屈指のピアニストとして評価が高い。武蔵野音大、大阪音大大学院卒。2007年和泉市文化功労賞受賞。日本演奏連盟所属。近況は <http://www.takeshi-piano.com/> まで。

### 滝本 恵利 (コントラバス)

国立音楽大学卒業。故 岡田基、松野淳司氏に師事。カナダのヴィクトリアにてゲラリー・カー氏のサマーセミナーに参加。現在、オーケストラや室内楽を中心に活動中。演奏団「ウッドランドノーツ」、トリオ「アーティストック・プリマ」、コントラバスアンサンブル「8」のメンバー。また、2009年よりアストロリコ・レディーズ「タンゴ・アルコイス」に参加。



### Harmonica



小倉 剛

### Guitar



大賀 拓也

## 団員募集

今回の公演をご覧になって「ぜひOMCへ入団したい」というご希望の方はご連絡下さい。

E-mail : [jarita@galaxy.ocn.ne.jp](mailto:jarita@galaxy.ocn.ne.jp) (有田) OMCホームページ : <http://omc.boy.jp/>

- ・練習日時 毎週月曜日 18時30分～20時45分  
毎月第4日曜日 13時～16時30分
- ・場所 梅田東学習ルーム  
阪急・梅田駅下車。ヤンマービルと百又ビルの間を東へ20m
- ・会費 月3000円 (ただし学生は1000円)



OSAKA MEN'S CHORUS